

中国の測量会社を視察して

村井俊治

1. 視察目的

中国における地理空間情報技術が民間レベルでどの程度ビジネスになっているかに関して、村井が昨年から友好関係ができた厦門市にある銀据信息有限公司（Silver Data GIS Company Limited: 略称 SD 社）を視察して現状を把握し、さらに日中間でどのような協力ができるかを議論する。

2. 視察日時：平成 24 年 7 月 21 日（土）～7 月 24 日（火）

3. 視察メンバー

村井俊治 日本測量協会会長、視察団リーダー

吉岡慧治 三陽技術コンサルタンツ 社長

齋藤壽仁 壽エンジニアリング 社長

黒岩保弘 黒岩測量設計事務所 社長

中西總一郎 中西測量設計 社長

山田恭平 土地家屋調査士事務所 社長

田村義一 測研社長

冨永伸樹 冨永調査事務所 社長

4. 視察行動記録

- 1) 7 月 21 日（土）成田から厦門へ移動。ホテル伯翔酒店にチェックインした後、SD 社の案内で海浜公園を散策した（写真 1）。



写真1 海浜公園、すぐ前に台湾の金門島あり

台湾の金門島がすぐ前に見える海浜公園で、マラソンコースになっている。夕食は、李社長およびフォン副社長（写真 2）



写真2 視察団と李社長(右)とフォン副社長(左)

が合流して舒友酒楼 (Shu You Restaurant) という高級海鮮料理店で夕食の接待を受けた。

- 2) 7月22日(日)SD社のガイドで、観光で有名なコロンス島に船でわたり(写真3)、



写真3 超満員の観光船でコロンス島に渡った

電動自動車で島を一周した後、菽苑の中にある鋼琴(ピアノ)博物館を見学した。18~20世紀の世界の有名なピアノが展示されていた。初日の出を展望する日光岩を仰ぐ地点は観光名所であった(写真4)。



写真4 中央の岩山が初日の出を拝む日光岩

島を離れて昼食した後、孔子を祀った儒士館にて4種の廈門式お茶会（写真5）



写真5 儒士館でお茶会を楽しむ

を楽しんだ。廈門はウーロン茶で有名な鉄観音のお茶の産地で正式のお茶の飲み方を披露された。儒士館には、孔子の教えの「信」「義」「礼」「智」「信」の昔からの漢字の発展史のレリーフがあった。ディナーは、好清香酒楼にて接待を受け、この席にはSD社の社長と副社長がホスト役であった。

3) 7月23日（月）

観光が先になったが、この日からSD社を視察した（写真6、写真7）。



写真6 SD社のビル(2階～4階の3フロア)



**写真7 SD社のロゴの前で視察団と社長・副社長
(右端は関根日本駐在所代表)**

李社長が会社の概要を説明してくれた。資本金 6 億円。社員 150 人。平均年齢 25 才。李社長の案内、闕春梅さん、林翔さんの通訳で 2 階、3 階、4 階を視察した。RS 事業部（主に航空写真測量）と GIS（データ入力とデータベース構築）を詳しく案内された。社内はセキュリティ管理が徹底されていた。社内整然。若い作業員が真剣に仕事に集中していた（写真 8）。



写真8 SD社の若い作業員

4 階の張巖方会長の補佐の叶婷さんが不在の会長の代理で挨拶した。会長、社長、副社長とも女性であり、中国では珍しいとのことである。定期的に試験があり昇格制に直結。毎月および毎年優秀社員の表彰制度あり。初任給は 1.5～2 万円、10 年経験者で 7～10 万円。PC 作業員は、5 万円。管理者は 6～7 万円。朝日航洋の受託作業をしていた（オルソと下水道管地図データ入力）。航空写真の撮影は中国製航測カメラ SWDC（劉先林先生開発）を使用（写真 9）。



写真9 SD社が使用している中国製航測カメラ

UAV および航空機搭載レーザースキャナー、MMS も使用。2005 年に ISO9001、2011 年に ISO14001 を取得。政府からグレード A クラスの航空測量の営業認可を取得し、自社の飛行機で航空写真の撮影と航空機搭載レーザースキャナーの撮影を実施している。ところで SD 社は、日本測量協会の特別会員（法人会員）になっている。G 空間 EXPO にも展示を出してくれた。メルボルンの ISPRS 大会でも展示を企画し積極的な営業展開をしている。

午後から筆者の「東日本大震災の教訓」中国語版出版本「東日本大地震的教訓」の署名式が行われ（写真 10）、



写真10 東日本大震災の教訓・中国語版本署名式

20冊の本に署名した。14:30 から1時間、村井が「東日本大震災の教訓と測量の役割」を講演した。続いて斎藤社長が「壽エンジニアリングの紹介」を講演した。最後に村井が「震災調査に役立った地理空間情報技術」を講演した。講演会終了後、李社長と今後の課題など討論した。18:30 から国恵酒楼にて夕食に接待された。胡佛経理部長および呉哲寧 GIS 事業部長も参加した。食事中、500 平方キロメートルの大縮尺航測図化の業務が落札できたとの報告があり、皆でお祝いを述べた。

- 4) 7月24日(火)、9:00 からSD社において1時間、今後の協力の方策を話し合う。村井が一般的な方向性を説明し、日中の測量設計の違いを説明した。SD社は測量関係しかしていないが、日本のほとんどの測量会社は建設コンサルをしており、土木設計をしているのが大きな相違点である。田村社長および斎藤社長から協力の提案があり、将来可能性を検討することにした。長い目で将来の関係を考慮することで合意した。万達(Wanda)プラザでショッピングしたのち、国恵酒楼で最後の昼食会をした。全員の集合写真を撮影して社長、副社長などと別れの挨拶をした(写真11)。



写真11 別れの昼食会

関春梅さん、林翔さんが厦門空港

まで送ってくれた。14:10 厦門発 NH936 便にて成田空港に 17:10 に到着。17:30 視察団を解散した。

5. 視察感想

SD社のトップがすべて女性であることもあって、荒々しいことも攻撃的なところもなく、極めて有効かつ楽しい視察を終えることができた。昨年(2011)台北で李社長にお会いして以来厦門への視察を強く要請されていたのが、やっと実現した。また筆者の日本語の本を中国語版に翻訳の労をとってくれた。このような背景から、大々的な接待を受けることが出来た。今回参加した測量会社の社長さんたちは、日本測量協会のサーベアカデミーのトップセミナーで知り合った社長さん方と、別な組織の講習会で知り合った社長さんであった。若いパソコン作業員が真剣に仕事に集中している姿を見て、全員とても感激した。日本の測量会社にはこれだけの若い優秀な人材を集めることはできないので、今後は中国の若い力をいかに利用するかを考えることが賢いであろう。単に大量の単純作業を依頼するだけでなく、ソフト開発など知的な力を引き出す知恵を持ちたい。中国と日本の地理空間情報技術は殆ど同レベルであり、お互いに両者の強みを補完しながらウイン・ウイン関係を構築する必要があると強く感じた。